

Aria[®]

FOLK & WESTERN GUITARS



完成度の追求

私たちが初めてアリアギターを
世に送り出して以来20年間
絶えずテーマにしていた
ことです。

カントリー・ウェスタン・ブーム、ボブ・ディラン、PPMなどに代表されるフォーク・ブーム、それに続いたシンガー・ソングライター・ブームなどを経て、フラット・トップギターは完全に定着し、今や様々なブランドのギターが氾濫しています。

こうした中で、良いギターを選ぶということはプロでもないかぎり非常に難しいことですが、最も確かな判断基準は、フォーマルな面での完成度にあると言えます。

ピカピカに研かれたポリエステルの厚い塗装、音質を無視した、色あいのみの表甲板選定、プロ用と称される太いネック、逆に細すぎるネック、派手なポジションマークインレイなどは、むしろ私たちの追求する完成度を崩す要因と言えます。

厚いポリエステル塗装は、ボディの鳴りを殺し、味わいの深いトーンを消してしまいます。このことを、長いガットギター作りの経験からみきわめているアリアは、研削を徹底した数度塗りでの音を殺さぬ美しい塗装をしています。

表甲の材料は、ただ白いものが良いわけではありません。松系の材料は、確かにあてやみに見えますが材料のグレインの密度、

弦の強さが決める手となる表甲にはほんの一部を除いてスプルースにはるかに劣ります。

アリアは、歴史的にも、科学的にも弦楽器用材としては最適とされているスプルースに固執しています。レスポンスに優れ、パワフルなスプルースは、楽器用材としても豊富が多く、それだけに、均質な良材のみを選別できるからです。

1960年後半以降、ポップ・ミュージックはロックサウンドの影響を受けその流れをかえました。フラット・トップギター自体に求められるサウンドも奏法もその流れにそって変わってきました。それまでのアルペジオ、コード・パッシングだけでなく、パイプレイションやチョーキングというよりハードなプレイが求められています。アリアは、そうした音楽家の要求に応じて、ネックの握り、フレットの仕上げ、テンションなどを設計しました。

私たちは、ギターの美しさを材料のナチュラルな仕上げにより表現します。ローズウッド、ジャカランダ、パールウッド、マカッサル、マホガニーなど、古くから人間の生活になじんできた木材のグレイン自体の美しさを生かした裏甲、側板が、ギターの楽器としての美しさを表現しているのです。スクエア・ヘッド・ピース、エボニー・ブラックのフィンガー・ボードとブリッジ、ティアー・ド・ローズ・スタイルのピックガード——こうした最もオーソドックスなスタイルの中に込められた完成度がアリアフラット・トップギターの売りものです。